

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）

2017年12月7日発行 SSKA 増刊通巻第9488号

SSKA ああるぴい

JRPS三重会報第21号

—◇ はじめに ◇—

12月5日に皇太子ご夫妻ご臨席のもと、安倍首相から、日本難病疾病団体協議会（JPA）が内閣総理大臣賞を受賞しました。これは、長年にわたり患者団体をまとめて行政に陳情などをしてきたり、毎年約60万筆の署名を集めて国会に請願行動を行ってきたことなどが評価されて、今回の受賞となったものと思います。

JRPSとJPAとの関係は、三重県網膜色素変性症協会は三重難病連の会員であり、三重難病連は日本難病疾病団体協議会の会員となっています。

また、今年初めてJRPS三重として、「網膜募金」を伊勢市の外宮前で街頭募金活動をしました。その模様は、この会報誌にも掲載してありますので、是非お読みください。

~~~~~

## ・・・ 目 次 ・・・

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 2018 年新春交流会のご案内 .....         | 3  |
| 白杖体験を終えて！ .....               | 5  |
| 歩行訓練を受けて .....                | 5  |
| 世界網膜の日イン宮城に参加して .....         | 5  |
| 街頭募金 .....                    | 8  |
| 東海・北陸地区リーダー研修会に参加して .....     | 9  |
| 津市防災訓練から学んだこと .....           | 10 |
| 鈴鹿青少年の森で 秋の交流会を終えて .....      | 12 |
| 楽しく生きてます .....                | 13 |
| 地元の老人会と触れ合って .....            | 15 |
| 入会にあたって .....                 | 15 |
| 「ニュージーランドのオークランドをご案内」 .....   | 16 |
| 第 2 2 回 J R P S 三重総会議案書 ..... | 19 |

## 2018 年新春交流会のご案内

本年もあとわずかとなってきました。

今年の正月に桑名にて行なわれました新春の顔合わせから、新年を迎えたら 1 年になるので  
すね。早いものです。

今回は南勢地区ということで、鳥羽市畔蛸町（あだこちょう）の西村屋旅館にて、下記の要領  
で開催させていただきます。

北勢からの人たちには遠方となり申し訳ないのですが、海の幸がお待ちしております。畔蛸（あ  
だこ）と言って地名を利用して、魚のたこが売り文句となり、たこ飯がとってもおいしいのです。  
是非とも、このたこ飯を食してみてください。

この西村屋旅館の近くに西明寺があり、ここで寺カフェと言って僧侶が説法やお茶を立てて振  
る舞って下さいます。その他隠し芸などお楽しみに。

### 記

- 日時：平成 30 年 1 月 21 日（日曜日） 10：30～14：45
- タイムスケジュール
  - ※ 鳥羽駅 9：45 発の送迎バス乗車
  - ※ 西村屋到着 10：15
  - ※ 西明寺にて寺カフェ 10：30 より
  - ※ 西村屋旅館に戻り新春懇親会 11：45 より
  - ※ オークション 13：45 より
  - ※ 送迎時間 14：45
- 会費：一人 4,000 円（付き添いも同額）
- 締め切り：平成 30 年 1 月 10 日までに下記の地区担当までご連絡下さい。
- オークションの売り上げは、JRPS 本部への寄付金とさせていただきますので、たくさん  
の遊休品などのご提供とお買い上げをよろしくお願い致します。
- 担当：小川正次・森沢吉行
- 詳細の問い合わせは小川まで

なお、地区担当は下記のとおりです。

県北勢部の女性会員：伊藤和子 059-379-0071 kazuito@mecha.ne.jp  
県北勢部の男性会員：佐藤好幸 0594-31-4041 yoshiyuki5110911@yahoo.co.jp  
伊賀・名張・亀山地区：森沢吉行 0595-64-3704 mz.1q84@asint.jp  
津地区：加藤 多 0598-23-2954 masakato@topaz.ocn.ne.jp  
松阪・紀勢地区：辻本和仁 090-6765-5739  
motchpino.5960.virgo9-pisces2@docomo.ne.jp  
志摩・鳥羽・度会地区：小川正次 0599-43-2523 sanryoin@poplar.ocn.ne.jp

※ 連絡の良い電車は次の通りです。

桑名発鳥羽行き急行

桑名 07:52 発

四日市 08:06

白子 08:21

津 08:33

伊勢中川 08:48

松阪 08:56

伊勢市 09:11

鳥羽 09:28 着

帰りの予定時間

鳥羽 15:26 発 松阪乗り換え 16:19 桑名 17:23 着



## 白杖体験を終えて！

松阪市 八重口 和子

今日は良いお天気に恵まれて、公園を目の前に松阪公民館で、アイパートナーの先生のご指導で「白杖訓練」を体験することができました。

濃い遮光メガネをかけて、目をつむり、点字ブロックの上をなぞって歩くコツを教えてくださいました。また、その右横とか左横とかを伝いながら、白杖を使って歩けるようにと実践をしました。途中でつなぎ目に引っかかったりして、うまく杖を運べなかったりして、なかなか結構難しいものです。

親切なアイパートナーさんのご指導をいただきました。

坂道を下ったり上ったり、まっすぐな所に出たりと、私にとっては新しい訓練で冷や汗ものでしたが、終われば楽しいひと時でした。汗もたくさん出て、秋風が心地よかったです。

その後、秋分の日ということで、実家のお墓参りに連れていってもらいましたが、初めての白杖を使ってのことでした。

狭い通路も意外と楽に歩いて白杖の良さを感じました。ありがとうございました。これから先も、いろいろな使い方があると思いますが、たくさん学び、身に付けたいと思います。

よろしくお願い致します

## 歩行訓練を受けて

松阪市 浅原 悦子

9月23日、松阪公民館で歩行訓練を受けました。

白杖が自分の身を守るため、目となり家から1歩外に出るときは大切なものと知ったのは、恥ずかしながら最近です。

アイパートナーさんと出会って知りました。白杖は、体の真ん中において、肩幅に振る。うまくいきません。

点字ブロックを使って歩く。これは引っかかって駄目。

いくら練習してもうまくいきません。

だから皆さま、そのコツをそっと教えていただけませんか。よろしく申し上げます。

## 世界網膜の日イン宮城に参加して

志摩市 小川 正次

9月29日（金曜日）、私たちは仙台にて催される「世界網膜の日イン宮城」に2泊3日で参加してきました。

私たち夫婦のガイドとして、私の姉夫婦・Sさんご夫婦の6人が揃っての出発です。総勢10人での参加ですが、あとの4人はこの時間には合わすことができないために、4時間ほどの遅れ

での出発となりました。

この旅程では誰も仙台までの案内もなく、田舎者ばかりが電車を乗り継いでの旅となります。名古屋駅と東京駅での乗り換えがあります。

そこで、Sさんが車椅子を利用することを理由にして、近鉄・JRと乗り換え時に駅で車いすをお願いしたら、各駅で車椅子を貸し出してくれるだけでなく、その車椅子を押しながらきっちりと乗り継ぎの介助をしていただきました。前もって乗換時刻表をお渡ししていたため、スムーズに乗り継ぎも予定通りに乗せていただきました。車内では何の心配もなく、食べ放題・しゃべり放題で、いつしか仙台駅に到着したのです。

仙台駅西口に着き、車椅子は返して、案内してくださる地元の知り合いの人のワゴン車で移動です。この方は仙台市荒浜町にお住まいで、13年前に新築された住まいを東日本震災の津波で浚われ、全壊の被害に遭われたとのことで、仙台駅から海に向かい約10kmほど走ってもらった所がその荒浜地区でした。そこで震災の爪痕を見せてもらったのです。ここは800世帯ほどがあり、2000人ほどの人々が家を失われたとのことでした。亡くなられた人も200人以上だそうです。海岸沿いには防波堤があり、今まで5メートルだったのが、今は7メートルに拡大されて、福島県まで続いているそうです。

その少し手前に4階建ての鉄筋コンクリート造りの荒浜小学校があり、唯一倒壊を免れた建物だそうです。その学校が現在災害資料館として、津波災害の生々しい映像や被害前の町並みのモニュメント等が展示されていました。資料館1階には、駐車していた3台の車が飛び込んできたそのままを展示されているようでした。案内人の方は、この学校の4階で津波の惨状を眺めておられるしかなかったということで、とても生きた心地のしない状態だったそうです。この方に会って、生々しい災害現場を実体験できたのは幸いでした。

その後、楽しみにしていた民謡の聞ける店に送ってもらいました。店の名は民謡居酒屋「おばちゃんのお店」。まずはビールで乾杯。すごくおいしかった。無事にここに来られたということや、生の民謡を聴かせてもらえるという期待とで、心は昂ぶるのです。

なんだかとても素朴な感じを受けるお店で、店主の数又利夫さんも女将の加藤節子さんもとても人当たりの良い印象を持ちました。テーブルの上にはたくさんの料理が並べられ、郷土料理をおいしくいただきました。また、店主の津軽三味線の音色と奥様の歌声が聞けるお店であることから、一緒に歌える曲があればというリクエストに、「新相馬節」を歌わせてもらいました。いろいろな民謡をみんなで歌わせてもらい、私も伴奏に鼻笛を吹きました。その後、店主の津軽三味線やプロの民謡歌手加藤節子さんの歌声を聞かせてもらえ、2時間半の楽しいひと時はあっという間でした。

30日は「世界網膜の日イン宮城」の大会です。式典が始まる前に便利機器展示を見学しましたが、昨年より少し業者も少なかったようです。

まずは白杖の業者「KOSUGE」をのぞき、電子白杖や杖に取り付ける電灯などを見せてもらい、メガネをかけると見えない所が見えるようになる、という眼鏡業者のHOYAを訪れ、そのメガネをかけてデモを試してみましたが、私の視力では全く明るくなったという感覚もなく期待外れに終わりました。見学者の中には少し何かが見えて明るくなった、と言われている人もいました。

11時からアトラクションである「仙台すずめ踊り」が始まり、衣装がとてもカラフルで楽しそうな踊りだそうです。続いて、仙台の盲学校の卒業生で結成された仙台ガブリエルの演奏でした。

13時から、第21回JRP S研究助成授与式・受賞者による研究発表で、次の先生方が授

与されました。

- ◎ 渡辺すみ子先生（東京大学） 「EYS 遺伝子変異が引き起こす網膜色素変性症のメカニズムの解明と創薬戦略の構築」
- ◎ 神田寛行先生（大阪大学） 「人工知能（deep learning）の人工網膜への応用」
- ◎ 松山武先生（理化学研究所） 「幹細胞由来三次元網膜移植後のホスト網膜とのシナプス接続の解析、および視機能改善のための光刺激の探求」

この先生はライオンズ賞も受賞。それぞれ研究内容は、RP（あーるぴー）等の会報誌で詳細に掲載してあります。

15時からお楽しみのトーク&歌謡ショーであるシンガー・ソングライターのさとう宗幸さんが登場、このコンサートに私はしびれました。

昨夜の民謡といい、さとう宗幸さんのトークショーといい、仙台へ来て良かったという気持ちになりました。

最後に次年度のJ R P S 愛媛の竹林会長が、朗朗と来年は松山市にお越しくださいと呼びかけられ、すでに行く気になりました。

小岩事務局長の閉会の言葉にて終了。そして親睦会会場（ホテル松島大観荘）へ、バスで移動しました。宴会場は広く、円形のテーブル席で行われました。私たちの席は三重の4人と滋賀と京都の3人でした。全部で130人が集まり、旧知の友人も含めて楽しい晚餐となりました。

明けて10月1日は、エクスカージョン（団体遊覧旅行）です。朝9時に2号車に乗り込み松島観光に出かけました。五大堂と瑞巖寺を見学した後、観光船による松島湾巡りに行きました。旅行は仙台駅に14時30分に送ってもらって解散です。仙台駅は新しく大きく立派な駅ビルのようなのでした。

ここで時間があつたので、仙台で有名なお菓子を買おうと店内を散策しました。義兄の勧めでお菓子博でもすぐに完売していた「萩の月」を見つけ、我が家も買いました。買い物好きな奥さんも満足したみたいです。帰りも駅員に前もって接続連絡時刻表を渡し、車椅子を用意してもらって、同じように無事に乗り換えもスムーズに帰宅の途に着きました。

振り返ると、この大会参加を躊躇していたのですが、昨年三重に来てもらったという協力で報いるためにわずかな恩返しのためで決心し、行ってこられたことに満足感を味わっています。

この旅で思い出に残ったことは、

- 1に、宮城の民謡を生で触れ合わせてもらえたこと。
- 2に、さとう宗幸さんのコンサートを聴かせてもらえたこと。
- 3に、J R の乗換に車椅子の借用と構内の引率をしていただき、心配もなく電車を利用できたこと。
- 4に、仙台の震災被災地を見学させてもらえたこと。
- 5に、たくさんの方々と直接面談させてもらえたこと。

書けば他にもたくさんありましたが、実になる経験として世界網膜の日を味わえたことを宝として残しておきます。

~~~~~

街頭募金

明和町 木村 靖子

JRPS 三重では網膜募金への資金集めに初めて街頭募金をしました。

10月8日（日曜日）、伊勢大まつりの日だから人出を期待しましたが、許可された所が外宮前の歩道ということで、案外、私たちの前を通る人は少なく、店のある反対側ばかり通って行くので引き寄せたいと思いました。

上空は青く雲ひとつなく晴れわたり、飛行機雲が白い線を引いているという具合で、秋とは言えない太陽の熱さで、声は枯れ、足はくたびれ、暑さで汗だくでした。

「募金してくれる人がありがたく感じる。これからは募金に協力したい」と、Tさんがもらしていました。

それでも奇特な方は一万円札を入れてくれたり、千円札は10枚くらいあったでしょうか。箱が重いくらい小銭もありました。

盲導犬2頭も暑い中頑張ってくれました。集計してみれば7万円をこえる金額でした。

ちなみに、暑さと戦ったのは会員6名（そのうち盲導犬使用者2名）、付き添いの方5名で合計11名でした。

ご協力していただいた役員さん、お疲れさまでした。



(伊勢市外宮前での街頭募金活動)

東海・北陸地区リーダー研修会に参加して

松阪市 加藤 多

2017年10月21日・22日の1泊2日でのJRPS東海・北陸地区リーダー研修会に参加いたしました。今回は東海地区としては3巡目、北陸地区としては2巡目に当たる愛知県主催の研修会でした。三重県から4名の参加で、ヘルパーを伴わない参加でしたが、松阪・名古屋の駅員さんや名古屋市のヘルパー矢野さん、宿では同部屋の晴眼者の会員さんにはずいぶんとお世話になりました。荒本東海・北陸地区担当理事の下でJRPS愛知の皆さんにいろいろな準備・運営に心配りを受けて実施できたことを感謝しています。台風21号が近づく中、大きな影響を受けハプニングもありましたが、新井会長の決断で実施した研修会では、研修会としての意義とその方向性を意識できたと考えます。

さて今回の研修会は、あらかじめ連絡された本部からの4つのテーマに従って、各県の現状と取り組みに対して、各県別に取り組んでいる現状とその問題点を発表し、質問や意見が述べられました。いろいろと聞いているとJRPS三重の取り組みだけが先んじて活動を行っていることが分かり、自負できることを確認できました。

1日目の研修会は、各県の参加者の自己紹介から始まり、本部の代表として河原JRPS副理事長や荒本地域担当理事からのお話で、現在抱えているJRPSとしての難題や取り組みについて話を聞いて、4つの大きなテーマを出題した意図を聞くことができました。

そのテーマは、①今後のリーダー研修会の在り方と進め方、②会員数拡大、③ピアサポーターについて、④医療機関との連携であります。本部として願う各県への要望を説明されました。2日目にはその4つの柱に各県の現状と取り組みに関して発表し、討議するという枠組で始まりました。

まず、本部からの連絡として、網膜色素変性症協会の目標として、①会員のQOLの向上、②治療法の確立を再確認した上で、5000名への会員増大を目指すこと。しかしながら現況として入退会を繰り返すうえで眼科医会・家族会員、介護サポーターも含めても3500名程度の会員しかない点、また会費の納入状況から見ても高齢者の退会をどう引き留めるかなど、切実な課題となっています。最近の会員番号が示す通り8000番台であることから分かるように、設立当初からの4000名を超す退会者があるという大きな問題であります。

また、協会の公益社団法人化に伴い「もうまく基金」から変更になった「網膜募金」の取り組みに関しても、そのノウハウを生かして各県で取り組んでもらいたい、との要望がありました。街頭募金をするうえで、盲導犬や児童を連れての募金活動は効果的であることも教えてもらいました。

また、治療法として理化学研究所等のiPS細胞の移植による再生医療の向上が見られ、自己細胞から他人細胞での再生移植が治療費のコストダウンにつながることや人工網膜の導入など、医学的治療法の向上が行われていることなど、明るい未来への期待感が高まってきました。しかし、RPの研究助成金など本部の運営にも資金不足はゆがめない。本部の財政面での苦しさを感じました。

それから、岐阜の加納担当会長から「WING」についての説明がありました。臨床実験から臨床試験、そして治験へと向かう過程についての治療に関する医学用語の解説等を会報誌RPの中に掲載しており、KUSやCRCなど用語解説や実験内容の情報公開をしている部署であることを初めて知りました。これからは情報の割愛をせずに読むことを努力しようと決意しました。愛

知医科大学の人工網膜の治験者の募集なども報告されました。

2日目は、台風が東海地方に近づいており交通機関に影響が出ることから、討議は午前中のみとなりました。本部からの要望の4つのテーマにしたがって各県からの代表の報告を討論しました。

まとめると、今後のリーダー研修会の在り方に関しては、どの県からも新形態の案はなく、現状の役員によるリーダー育成を目指すための討論会を、継続すべきであるという結論になりました。全国では講演会やレクリエーションを含めて行っている他地区もありますが、東海・北陸地区は現状維持がベストと判断されました。

次に「もうまく募金」について、街頭募金活動を行ったのは三重だけであり、他県は行事等での募金箱の回覧が主で、企業からの募金を募るところもありました。先進的に三重が模範を示したこととなります。

次に、会員拡大のための新会員の募集や退会者の引き留めに関しては、各県とも、死去を除き退会希望者を会につなぎとめる方法に苦慮しており、多くの増加は望めないとのことでした。もうまくサポーターの普及にもまだまだ積極的でないのが現状です。一例として、富山では書込み可能なカレンダーに会の年間行事を記入したものを配布し、全会員に周知させるとか。三重ではホームページの開設により、URLやメールを通しての呼びかけをしていること、岐阜や福井では視能訓練士を集めてJ R P Sの存在を認識させ、患者に会への加入を推薦してもらうなど、さまざまな方法で勧誘に努力しているようです。

次に、ピアサポーター（医療相談）の現状について報告がありました。難病相談会などJ R P S中心となって実施している県は愛知・三重・静岡であり、他県は難病センターのカウンセラーに任せているという報告です。最近創設された神戸のアイセンターには、常勤で相談員が置かれていて対応されています。

医療機関やアイサポートセンターとの連携は、どの県も積極的に関与しているが、各県の視覚障害者協会との連携はまちまちで、愛知・三重・富山はほとんどが重複会員になっているのに対して、その他はほとんど重複していないのが現状で、北陸でも石川県だけは独自のR P患者会を設けておりJ R P Sには加入していない事実も分かりました。なぜ同じ障害を持つ者同志が協力をしようとならないのか納得できません。その原因はなぜなのかを知りたいと願いました。

このように、夜の交流会を含めてしっかりと討論できたことで、今後のリーダー研修会の方向性も確立できたことであり、次年度の三重開催に弾みを付けて臨みたいと考える次第です。

津市防災訓練から学んだこと

津市 内田 順朗

○ はじめに

「9028」、これは平成29年11月12日に私が1日に歩いた歩数です。1万歩を目標にしていますが、なかなか実現できていません。

この日の朝は大変冷え込んでいましたが、日射しも豊かで日中は暖かい日で、アウトドアの活動には最適でした。R P三重の秋の交流会でしたが、実は私、午前中は別行動で、津市美里町で行われた津市総合防災訓練に参加していました。

その感想を紹介します。

○ 防災訓練について

津市は約10年前に周辺の市町村と合併し、伊勢湾の海岸線から奈良県境の山間地に至る広範囲で、多様な自然条件を持つ市となっています。

防災訓練は主として大規模自然災害の発生を予想しての訓練となります。今年は山間地域での災害を想定してということで、津市中心部から西方にある山間地の美里町での実施でした。総合訓練なので、行政機関をはじめ警察・消防・自衛隊・医療機関はもとよりさまざまな民間団体が参加しています。

おそらくいざというときに、スムーズに効率的な連携が取れるようにという訓練の目標が感じられました。

私は災害時にも視覚障がい者が安全に避難できるようにとの観点から、弱視の妻を含む数名の視覚障がい者とともに参加しました。今回の訓練では「大規模災害時に援助を必要とする人たちに対してどのような配慮が必要なのか」という設定はあまり感じられなかったのですが、実際の災害時では「これが現実」だということが分かっただけでも一つの収穫だったと思います。ただ、いろんな機関や団体がそれぞれの役割を持って活動することを目の当たりに感じる事ができたこと、例えば自衛隊の非常食の炊き出しや飲用水の提供・医療機関の活動・防災ヘリによる被災者のつり上げ救出の実演・最近注目されているドローンによる被災地の空中撮影のデモなどは初めての見聞だったので、良い経験でした。

○ 感震ブレーカーのこと

地震発生時に停電した場合、再び電気が通ったときに倒れていた電熱器に通電して、火災の原因となることが知られています。その対策として「感震ブレーカー」を設置するという防災対策が考えられており、その「感震ブレーカー」の展示もありました。この器具により再通電による火災は防げるものの、夜間に感震ブレーカーが作動した場合には照明も切れてしまうので、屋内からの避難行動に支障が出るのではないかと指摘もあり、難しいものだなということを知りました。

○ 上手に誘導支援を受けるために

災害時の避難では、日頃慣れ親しんでいる自宅周辺の道でさえ、道路の状態が変わっていることが予想されるので、避難には他者の支援が必要となります。その際、支援する人は必ずしも視覚障がい者の誘導方法などについては知識や技能を持っているとは限りませんので、私たち当事者が手引きの方法や注意してほしいことを、必要に応じて適切に説明できるようにしておく必要があります。日常生活や外出時にそのようなことを心がけておくことも大切ですね。

今回の訓練は、障がい者の社会参加活動の支援や防災ボランティア活動をされている津市の萩野氏のお誘いでの参加でした。氏の持論は「訓練は失敗するためのもの」であり、訓練の中でうまくいかなかったことに対して考察を加えることで、実際に災害が発生したときに役立つようにしなければならないというものです。

○ 災害用伝言ダイヤル171

そのようなことで、私も「災害用伝言ダイヤル171」を後日体験しておきました。「災害用伝言ダイヤル171」は、毎月1日と15日に固定電話でも携帯電話でも体験できます。

○ 地域の防災情報は携帯電話で

また、外出時に地域の防災・災害情報を携帯電話で受信できるようにしておくことも大切です。三重県はそのようなメールサービスをしているので、利用をお勧めします。津市には災害を知らせる防災行政無線という屋外の拡声器が設置されています。しかし、窓を閉め切っていると音声による放送内容がよく聞き取れません。そのような場合にはテレホンサービスを利用して聞き逃した内容を電話で確認することができるので、私はその電話番号を携帯電話に登録してあります。

○ ローリングストック

非常食ですが、長期にわたり保存できる専用の物を用意しておくことも大切ですが、特に「長期保存」ということでなく、通常の加工食品を日頃から蓄えておいて、消費期限が切れないように使い回していくという「ローリングストック」の考え方があります。

これは、使い方や食べ方に慣れておくことと、消費期限に注意しながら、ストックを切れないようにすることで、防災意識を持続することができる観点から有効ではないかと思っています。

○ 触って分かる防災マップを作る

萩野氏は、防災マップの「触れる地図化」を試行しています。それぞれの視覚障がい者に必要な触れる地図を作っておいて、日常生活や災害時の避難行動の経路の確認に使えるようにとの、晴眼・盲人両用のユニバーサルな地図でもあります。

○ おわりに

当日は訓練終了後、萩野氏に鈴鹿青少年の森のレク会場まで車で移動支援していただきました。午後からは皆さまとともに行事に参加でき有意義な時間を過ごしました。

計画・準備されました役員さんに感謝です。

鈴鹿青少年の森で 秋の交流会を終えて

佐藤 好幸

今年の秋の交流会は11月12日（日曜日）鈴鹿の青少年の森で開催されました。

当日は、心配していた天候も雲一つない好天に恵まれ、会員17名付添い15名とたくさんのご参加を得て無事終了することができました。ご参加のみなさまご協力ありがとうございました。

午前中は、芝生広場で開会式を開催し、そのあと1時間少々の園内自由散策を行いました。多くの人たちはちょっと起伏のある初秋の園内を散策されましたが、中には広場でよもやま話を楽しまれた方もあったようで、それぞれ楽しいひとときを過ごされたようです。

お昼には 再度芝生広場に集合し、持参のお弁当とあわせて差し入れのお菓子などいただき、辻本さんが持ってきてくださったギターに合わせて、みんなで四季の歌などを歌い、楽しいひとときを過ごすことができました。

そのあと園内の青少年センターに移動し、講演会と交流会の開催です。講演会は、地元鈴鹿にちなむお話しとのことで、「大黒屋光太夫について」のテーマで大黒屋光太夫顕彰会の会長さんと事務局長さんから45分間ほどお話しをうかがいました。

光太夫はただの漂流民ではなく、帰国までの10年の間にロシア各地でいろいろな人たちにお

世話になりながら、信用とともに信頼も得て、日本語学校の教師などになりました。一民間外交官のように活躍し、女王エカテリナ二世に謁見し、帰国を願い出ました。その願いがかない、ロシア使節ラックスマンとともに日本に帰国することができました。帰国後、光太夫はロシアの事情について幕府要人の諮問を受け、幕末の外交交渉にもその体験は大いに役立ったようです。

日記や著書によって外国事情をたくさんの日本人に伝えた幕末の重要な日本人の一人が、鈴鹿出身の光太夫だったというようにお話しでした。

そんなことで、地区の偉人として、小中学校や高校でも音楽会や演劇で毎年のように取り上げられるなどしており、さらに市民あがての顕彰会組織も充実されつつあるとのことのお話しでした。この研修会を機会に、参加者の何人かが顕彰会に加入しました。

そのあと、会員の近況報告などを行いました。報告会では副会長の小川正次さんが、11月5日東京で、今年度の厚生労働大臣表彰を受賞されたというおめでたいお話しも披露され、ともに喜び合うこともできました。

最後に、1月21日の鳥羽市での新春交流会での再会を約し、有意義な一日を終えることができました。



楽しく生きてます

志摩市 小川 明美

JRPSへ入会してもう21年。月日の経つのは早いものだとつくづく感じています。

現在私は67才。ということは46才頃からの入会になります。

入会当初は息子がまだわんぱく坊主から脱皮して、ワルガキぶっていた頃だと思います。私たち家族は全盲の夫婦と一人息子の3人暮らしでした。

我が家には患者さんをはじめ、ボランティアさん・ヘルパーさん・隣近所の方、そして私たちの友達や親戚が出入りしてくれています。この人たちの目や手足を、我がもの顔で便利に使わせてもらってきました。もちろん、この一人息子の目を頼りに出歩いていたこともあります。

私たちの生活は、大半が仕事場で過ごしていますが、定休日やいろいろな行事に参加するときは、親戚の人や友達・ヘルパーさん・ボランティアさんたちの腕を頼りに出歩きます。

R P 患者として生まれ今日まで過ごす中で、お星さまも空飛ぶ小鳥や虫たちも、雲の形や野山の木々の様子も見たことがありません。さらに、海の色・魚たち・海辺の様子も分かっていません。でも、周りの人たちに説明してもらうことで分かったような顔をしながらも、不安な時を過ごしてきました。

人の顔色や様子が見えてない私は、体調の悪さも機嫌の悪さも分からぬまま接してきたように思います。自分の親が「今夜が峠です」とお医者さんに言われても、「この峠を超えれば元気になる・よくなる」と思っていて、まさか峠を越えてあの世へ旅立つとは思えなかったのです。周りの空気も読めず、ただただ父のそばにいたことを思い出します。いつしか両親も、祖母も見送りました。私たちのことをいつも気にかけてくれた身内との別れでした。

今は子どもの家族や兄弟姉妹・甥や姪に気遣ってもらいながら過ごしている今日この頃です。わんぱく坊主・ワルガキを通り越して、息子はお嫁さんを迎え、子どもを3人(3人目はもうすぐ顔を出してくれる)の父親になりました。仕事場ではそれなりの立場となり、いろいろな所へ羽ばたきかけているようです。元気に笑顔で暮らす息子家族に感謝しながら、今年も年末年始はこの息子の家へ招いてもらっています。自分でしなきゃならないことも、家庭の中では少しずつ少なくなってきたように感じています。のんびりしすぎてボケないかとちょっと心配なこの頃です。

今年には私にとって忙しい年になりました。三重県視覚障害者協会女性部の部長に任命され、女子部の仲間たちとの行事を計画・案内をして実施させてもらいました。仲間たちの協力に感謝しています。また女性部役員の一員として東京や静岡・群馬へも行って来ました。会員の一人として参加させてもらう行事は気楽に楽しませてもらえました。

全国盲人福祉大会徳島へは、貸切りバスで参加となり、淡路島・阿波踊り会館や眉山へも行って来ました。

愛知県のJ R P S 設立20周年記念大会と、岐阜県の10周年記念大会にも参加させてもらい、目の病気に取り組んでくださっている高橋先生や不仁門(ふじかど)先生・中泊先生のお話を聞かせてもらい、岐阜県長良川河畔の鶉匠の宿へ泊まり、全盲・弱視の人のR P 患者会仲間たちとの参加でしたので、鶉飼いの様子は見えてない・わずかにかがり火がわかる程度だけでしたが、おいしいご馳走や会話で十二分に楽しむことができました。

兵庫県音楽の集いにも参加させてもらい、R P で知り合ったメル友さんのお宅へ泊まらせてもらい、他地域の活動を眺めてきました。

世界網膜の日イン宮城にも参加させてもらいました。前泊し東日本大震災で甚大な被害を被った荒浜地区を案内してもらい、民謡の聞ける居酒屋で夕食だけでなく津軽三味線と唄を楽しみました。翌日は大会式典・さとう宗幸さんライブも楽しみ、宿舎は松島の大観荘ホテルへ泊まり、翌日は五大堂・瑞巖寺・松島湾巡り、笹かまの有名な店でおいしい昼食を食べ、仙台駅から新幹線で無事に帰宅できました。

J R P S 三重の秋の交流会で、鈴鹿青少年の森へも行きました。朝、津市の防災訓練にも顔を出したので遅れての参加のため芝生公園の散策には加われなかったものの、ギター演奏の楽しい合唱交流には参加できました。参加者のおいしい酒まんを頂いたり、手作りのかりんとうもご馳走になりました。おいしくてありがとう！ 午後からの大黒屋光太夫についての講演は居眠りし

ながら聞かせてもらってきました。ごめんなさい。

これからは年の瀬ということもあり、あっちこっちの忘年会やクリスマス会に私のお腹も忙しくなりそう！です。

地元の老人会と触れ合って

老人の仲間に入った私（匿名希望）

障害者の会などにはもちろん、どこにでも行きたくて参加するようにしている私です。誘ってもらったら多分どこにでも出かけて行っています。

でも地域の人との交流はなかなか行くことができません。お祭りなどにも、やっぱり見えないのだから連れて行っても仕方ないでしょう。という先入観から、連れて行ってとは頼めません。でも地域の老人会で、月に2度火曜日に晴眼者の老人の仲間に入れてもらって楽しんでいます。中身は、午前10時から軽い体操をして、頭の体操やクイズやしりとり等々があります。いろいろな事が見えても見えなくても積極的に参加すれば、自分ができる範囲のことを理解してもらえるからです。

私の障害を知ってもらえることで、仲間として気持ち良くお付き合いさせていただくことができ、とても楽しい老人会です。

見えない私を見て、皆さんも頑張ってもらえたら嬉しいなあ。と思っています。

入会にあたって

名張市百合ヶ丘 森澤 吉行

今年入会しました森澤吉行です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、名張の百合が丘で住んでおり、56歳です。

視力は何とか光を感じる程度で、盲導犬を使っております。視力があるころは、調理師をし、10年ほど飲食店を経営しておりました。

視覚障がい者として活動をはじめましたのは15年ほど前になりますが、パソコン教室がきっかけで、その受講者の皆さんにお会いしたことから、現在盲導犬を持つほど大きく変わりました。

その受講者の中でも特に、亡くなられた内田吉美さんには大変にお世話になりました。吉美さんは「JRPS」のメンバーでもありました。そこで、視覚障害者協会の催しに誘っていただいたり、弱視の便利グッズ情報など紹介していただき、いろいろと面倒を見てもらいました。

特に印象に残っておりますのが、持つことに抵抗のあった「白杖」を強く勧められたことです。そんな私ですが、いま盲導犬を使っておりますことは、当時の私からすれば考えられません。家内もつくづく言っております。

「人間って変わるんだなあ」と。

ともかく、パソコン教室に参加してから現在まで、多くの方々にお会いできて、たくさんのお世話をいただきました。できることは限られておりますが、少しでも会員の皆さまのお役に立てるよう努力していきます。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

「ニュージーランドのオークランドをご案内」

度会町 辻本 和仁

J R P S 三重では、来年2月にニュージーランド旅行が計画されています。そこで今回は、NHK BS プレミアムチャンネルで放送されている番組である「世界ふれあい 街歩き」という番組の中から、オークランド編がありましたので、これをもとに、街の様子や歴史、人々の暮らしについてまとめてみました。ニュージーランドへ行かれる方には一足先に、残念ながら今回は不参加の方も、どうぞ旅人気分を味わってみてください。

オークランドは、ニュージーランドで一番大きな港町。イギリス開拓民がこの地に入植したのは、19世紀前半。今やニュージーランド最大の都市であり、開拓時代の建物と、近代的なビルが共存する美しい街になっています。この街の住みやすさにひかれて、海外から移住してくる人も多いのだそうです。

オークランドは海沿いの街なので、フェリーに乗って海から街を眺めると、街の真ん中に「スカイタワー」がそびえたっています。街のシンボルです。朝8時の港では、フェリーを降りてこれから出勤する人がたくさん。栈橋の先は改札口になっていて、電車乗り場みたいです。自転車と一緒にフェリーに乗ったり、中にはスケートボードを持って乗ったりする人も。フェリーを降りたら、自転車やスケボーに乗って職場に直行するのだとか。港の方から歩いていくと、街のメインストリート「クイーン通り」に続きます。この先の方に、フェリーから見たスカイタワーがあります。

道沿いには近代的なビルが立ち並んでいて、石造りの歴史のありそうな立派な建物もあります。歩道も広いので、天気が良いととても気持ちいい。街角ではヴァイオリンを弾いている人にも出会います。

歩いているとまた別の歴史的建造物を発見。それまで先住民マオリが暮らしていたこの地で、イギリス開拓民による町づくりが始まったのが19世紀前半で、街は歴史を伝える当時の建物を保護しているのだそうです。

赤いジャンパーを着た観光ガイドさんがいて無料で観光客に道案内をしてくれています。ガイドさんの案内で、スカイタワーの近くまで来ました。見上げるとすごく高い。高さ328m、南半球で一番高いタワーだとか。現地の人にとって誇りとなるタワーです。タワーの上からワイヤーにぶら下がって飛び降りるアトラクションが流行っているようで、飛び降りた人に聞くと、「人生は一度だから、一度は挑戦してみようと思った！」。

オークランドがニュージーランド一の港町になった秘密をご紹介します。

その一つが、地形。太平洋とその反対側にタスマン海があり、二つの荒れることが少ない湾があるオークランドは、港として170年以上前の開拓時代から最高の地形だったのです。

もうひとつの理由。開拓時代当初、先住民に習い、水辺に生える葦をふいた小屋で暮らしていたイギリス人開拓者たち。その人たちが、家屋など街を創るのに注目したのが、オークランド周辺に豊富にあった「カウリ」と呼ばれる木でした。カウリは、高さ50mにもなる世界最大の巨木。その木材は、長く幅が広いので、建物や帆船づくりにうってつけでした。この需要は世界に広まり、最盛期には年間2万6千トンもの木材が国内外に送られ、港は拡大しました。そしてこの100年で、オークランドは木材だけでなく、乳製品や果物も輸出する近代的な港町へと姿を変えたのです。

オークランド港のコンテナ扱い量はニュージーランドで一番、24時間休まない国際港として、今も発展し続けています。

街の東、カーネルという地域には、「ジャッジズベイ」という入り江があります。

ジャッジズベイは、海が青く空が広い、すてきな海岸です。砂遊び、カヌー、サーフボードなど、ビーチリゾート気分を味わえます。

また、オークランドはバラ園があり、たくさんのバラに、たくさんの人たちが花の色や香りを楽しんでます。バラ園には、花で飾られたアーチがあり、「ナンシー・ステイン・ガーデン」と名前の付いた庭があります。開拓時代にイギリスから持ち込まれたバラを集めて庭を作った人の名で、今はそのお孫さんが代々引き継いで育てているのだそうです。遠い故郷から離れた土地で亡くなった人たちのために、故郷のバラで弔ったという歴史があった。そうした思いが、今もオークランドでは受け継がれているのです。

オークランドのおすすめグルメの紹介です。

第3位は、韓国風パンケーキ。一番人気は、パイナップルとハムとチーズのミックス。パン生地は、韓国ではモトクというスナックに使われるもので、もちもち感が特徴。香ばしく焼き上げると、中のチーズが溶けてハムとパイナップルのハーモニーが生まれる。とてもおいしい。

第2位は、ディープフライ海苔巻き。照り焼きチキンやアボガド・ニンジンなどを豪快に巻いたボリュームたっぷりの海苔巻きを、溶き卵とパン粉をつけてトンカツみたいにまるごと揚げる。これが、ディープフライ。サクッと揚がった衣の中にやわらかい海苔巻きが包まれて、今まで経験したことのないディープな味になっている。

第1位は、ベルギー風蒸しムール貝。玉ねぎとにんにくと一緒にオークランド特産のムール貝を豪快に蒸し、それを白ワインとチーズのソースでベルギー風に仕上げて出来上がり。プリッとしたムール貝とクリーミーなソースが絡んで、大人の味に。

街の西、ポンソンビーと呼ばれる住宅街。芝生では、子どもたちがクリケットをやっています。きれいな芝生でスポーツ、都会なのにのびのびしています。一部草の生えた広場で蜂の巣箱を見せてくれました。はちみつを集めるために、たくさんの人たちが花を育てているのです。アパートでも蜂のために花を育てている人がいるわけです。ミツバチが取り持つ縁ができるのだそうです。

ポンソンビー住宅街。センスのいい木造のお宅が並んでいる。この周辺は140年ほど前にできた住宅街で、かつては漁師や職人が暮らしていた。現在では、中心部に近く便利なため、高級住宅地となっている。どこの家もきれいな花を育てていて、さっきの公園のみつばちたちも、この辺りで蜜を集めているのでしょう。

今度は、オークランド近くの観光スポットであるワイヘキ島について。先住民族マオリの文化が色濃く残っている島で、フェリーで40分の場所。島には、文化や信仰を大切にしているマオリの人たちがたくさん住んでいて、自然と話をするらしいとか。自然と話すってどういうことなのでしょう。

マオリの人たちによると「この世界を創った神は、パパとランギヌイで、ランギヌイとは父なる空で、パパは、母なる大地を表します。2つの神がすべてに命を与えたのです。自然の神々が私たちを守ってくれているのです。マオリは、その自然を敬い、つながることを大切にしているのです。」ということなのです。では、実際にどうやって自然と話をするのか。それは楽器を使います。貝殻の笛。ひょうたん紐に紐を付けた楽器などあります。振り回すとヒューヒューと不思議な音がします。森で鳴らすと、鳥が集まってこの音に鳴き声を返すのです。と言う。

オークランドは「City of sails」(帆の町)と言われるほど船が多い。船に乗り込む子ども連れの家族。港に停まっているヨットがお家なのだそうです。ヨットでは、鳥のキーウィやカエルやクジラの彫刻のお土産物を創って生活しています。スカイタワーも星空もいつでも見ることが

できます。船での生活を通して、オークランドの町と自然をこよなく愛し、毎日を楽しんでいるのです。

快適な大都市オークランド、ぜひ行ってみたい町の一つですね。「世界ふれあい街歩き—オークランド編」からの紹介でした。



第22回JRPS三重総会議案書

第1号議案 平成28年度事業報告

- ① 今年度は、会員の交流を兼ねての花見を志摩市で行いました。
- ② QOLの事業を行い、会員のスキルアップに努めました。
- ③ 各種団体が行う交流会などに参加しました。
- ④ 地域で相談会を行いました。
- ⑤ 三重大学の倫理委員会に参加しました。
- ⑥ 世界網膜の日イン三重を鳥羽で開催しました。準備委員会を7回開催し、その準備に努めました。
- ⑦ RI世界大会イン台北に参加しました。
- ⑧ 網膜網脈絡フォーラムを伊勢で開催しました。
- ⑨ 協会独自のホームページを作成し、運営しています。
- ⑩ ボランティアのユニホームを完備しました。

実施日	用件	場所	参加人数 (会員)	付き添い等
4月5日	難病相談	難病相談支援センター	1名	
4月8日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
4月10日	世界網膜の日実行委員会	松阪公民館	6名	4名
4月21日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
5月1日	世界網膜の日実行委員会	松阪公民館	8名	4名
5月15.16日	JPA定期総会	東京	1名	1名
5月22日	JRPS 理事会	東京	1名	
5月23日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
5月27日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
5月31日	三重難病連理事会	難病相談支援センター	1名	
6月2日	難病相談	難病相談支援センター	1名	
6月4日	代議員会	東京	2名	1名
6月5日	常任理事会	東京	1名	
6月10日	倫理委員の研修会	三重大学	1名	
6月12日	世界網膜の日実行委員会	松阪公民館	8名	5名
6月12日	地域相談会	伊勢県庁舎	1名	
6月13日	選挙の動員 三重難病連として	田村事務所	1名	1名
6月14日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
6月18日	障害者差別解消法の会議	津市	1名	1名
6月24日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
6月26日	定期総会	福祉会館	44名	
6月28日	三重難病連定期総会	難病相談支援センター	1名	
7月8.9日	世界大会 設立20周年として	台湾	25名	
7月12日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
7月17日	世界網膜の日実行委員会	鳥羽文化会館	9名	6名

7月17日	世界網膜の日の合同実行委員会	鳥羽文化会館	8名	13名
7月24日	地域相談会	桑名メディアライブ	2名	
7月29日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
7月30.31日	東海、北陸リーダー研修会	福井	6名	
8月4日	ライオンズクラブなどに寄付依頼	鳥羽市、志摩市	2名	1名
8月4日	鳥羽、志摩 ライオンズクラブへの寄付依頼	鳥羽市、志摩市	3名	
8月8日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
8月17日	障害者差別解消支援協議会	津市	1名	1名
8月20.21日	JRPSの募金、5000名委員会	名古屋	1名	
8月26日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
8月28日	世界網膜の日実行委員会	松阪公民館	9名	6名
8月28日	研修会	松阪公民館	15名	
8月28日	歩行訓練	松阪公民館	4名	
8月29日	シーサイドホテルとの打ち合わせ	鳥羽市	3名	
9月11日	地域相談会	鈴鹿県庁舎	1名	
9月12日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
9月13日	世界網膜の日などの記者発表	三重県庁	2名	2名
9月18日	世界網膜の日実行委員会	鳥羽文化会館	9名	6名
9月18日	世界網膜の日の合同実行委員会	鳥羽文化会館	15名	13名
9月24日	世界網膜の日 in 三重	鳥羽文化会館	578名	
9月25日	伊勢神宮観光	伊勢市	172名	
9月30日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
10月2日	網膜フォーラム	伊勢市	8名	230名
10月4日	難病相談	難病相談支援センター	1名	
10月7日	中日新聞の激励金の審査会	難病相談支援センター	1名	
10月10日	障害者差別解消法の会議	津市	1名	1名
10月11日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
10月14日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
10月23日	地域相談会	伊賀県庁舎	1名	
10月27日	中日新聞の激励金の授与式	津市	1名	
11月27日	幸せネットの全国大会	津市	1名	
11月29.30日	東海ブロック大会(難病)	美濃市	1名	1名
11月4日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
11月7日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
11月20日	秋の交流会	斎宮	30名	
11月26日	障害者差別解消のタウンミーティング	津市	1名	1名
11月27日	地域相談会	熊野	1名	
12月1日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
12月9日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
12月15日	相談員研修会	難病相談支援センター	1名	

12月17.18日	世界網膜の日の反省会	みなと旅館	15名	
1月10日	難病相談	難病相談支援センター	1名	
1月13日	臨床倫理委員会	三重大学	1名	1名
1月14日	JRPS 常任理事会	東京	1名	
1月22日	新春交流会	桑名市	24名	
1月24日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名
1月31日	障害者差別解消支援協議会	津市	1名	1名
1月31日	相談員研修会	難病相談支援センター	1名	
2月13日	研究倫理委員会	三重大学	1名	1名

第2号議案 平成28年度決算報告

収入の部

(単位:円)

項目	細目	予算額	決算額
本部より三重県協会へ支援金		50,000	60,000
QOL 対策費		20,000	0
総会(参加費)	参加費 700円×27名 1,000円×2名	21,000	20,900
総会(弁当代)	800円×36名	24,000	28,800
総会懇親会参加費	4,000円×15名		60,000
新春交流会参加費	新春交流会参加費 4,000円×24名	150,000	96,000
難病センターより		70,000	70,000
寄付	講師からの寄付など	90,000	385,000
助成金	共同募金・世界網膜の日の残金など	65,000	638,452
合 計		490,000	1,359,152

支出の部

(単位:円)

項目	細目	予算額	決算額
役員行動費		97,000	212,260
総会の印刷費		3,000	3,241
総会の通信費		3,000	4,920
総会の講師謝礼等		80,000	65,000
会場使用料等		25,000	30,399
ボランティア交通費等		10,000	5,650
総会の弁当代		24,000	34,400
総会の懇親会費			59,500
三重難病連の会費		20,000	20,000
会報の印刷費		4,000	1,905
会報の通信費		1,000	1,160
新春交流会の講師謝礼等		10,000	5,000
ボランティア交通費等		10,000	0
新春交流会の食事代等		150,000	86,900
勉強会での講師謝礼等		25,000	40,000
勉強会のボランティア交通費等		5,000	0
事務費	ホームページ作成費&運営費など	13,000	225,910
その他	ユニフォーム、台北大会補助、花見会場代、熊本震災寄付など		333,131
予備費		10,000	
基金積み立て			229,776
合 計		490,000	1,359,152

基金積み立ての部

①平成22年3月31日現在	117,655 円
②三重オーストラリア協会へ	▲110,000 円
③23年3月31日現在基金積み立て分	27,963 円
④24年3月31日現在基金積み立て分	51,376 円
⑤25年3月31日現在基金積み立て分	12,950 円
⑥26年3月31日現在基金積み立て分	433,712 円
⑦国際フォーラムへの参加補助	▲118,394 円
⑧平成27年3月31日基金積み立て	59,328 円
⑨基金取り崩し 平成28年3月31日現在	▲191,509 円
⑩平成29年3月31日現在基金積み立て	229,776 円
合計 ①~⑩	512,857 円

第3号議案 平成29年度事業計画

- ①平成28年度作製したHPの運営を行う。
- ②東海・北陸リーダー研修会に参加する。
- ③ニュージーランドで行われる世界大会へ当協会独自に参加する。
- ④街頭募金を行う。

平成29年5月14日(日)	JRPSの理事会
5月28日(日) 29日(月)	JPA総会
6月4日(日)	松阪地域難病相談会
6月10日(土)	代議員会
6月25日(日)	定期総会と医療講演 松阪市福祉会館2階大会議室
7月1日(土)	RPS 愛知20周年記念行事
7月2日(日)	RPS 岐阜10周年記念行事
7月9日(日)	四日市地域難病相談会
9月17日(日)	歩行訓練&役員会 松阪公民館
9月24日(日)	津地域難病相談会
9月30日(土) 10月1日(日)	世界網膜の日 in 宮城 仙台市
10月15日(日)	伊賀地域難病相談会
10月21日(土) 22日(日)	東海北陸リーダー研修会 名古屋市
11月12日(日)	秋の交流会 北勢地区
11月19日(日)	網脈絡フォーラム 大阪
11月26日(日)	尾鷲地域難病相談会
平成30年1月21日(日)	新春交流会 南勢地区
2月7日(水)~11日(日)	ニュージーランド世界大会
3月31日(土)	第5回花見会&役員会 中勢地区

第4号議案 平成29年度予算

収入の部

(単位:円)

項目	細目	金額
本部より支援金		50,000
総会(参加費)	700円×30名	21,000
総会(弁当代)	800円×30名	24,000
新春交流会(参加費)	5,000円×30名	150,000
難病センターより		70,000
寄付		90,000
助成金	共同募金などから	65,000
合計		470,000

支出の部

(単位:円)

項目	細目	金額
役員行動費		97,000
総会(印刷費)		3,000
総会(通信費)		3,000
総会(講師謝礼等)		60,000
総会(会場使用料等)		25,000
総会(ボランティア交通費等)		10,000
総会(弁当代)	800円×30名	24,000
三重難病連の会費		20,000
会報(印刷費)		4,000
会報(通信費)		1,000
新春交流会(講師謝礼等)		10,000
新春交流会(ボランティア交通費等)		10,000
新春交流会	参加費	150,000
勉強会(講師謝礼等)		25,000
勉強会(ボランティア交通費等)		5,000
事務費		13,000
予備費		10,000
合計		470,000

第5号議案 その他

イ 役員の一部改選

ロ 世界大会の参加と次年度世界網膜の日の参加について

SSKA ああるぴい

—◇ 編集後記 ◇—

1. 今回の会報の発行にあたって、いろいろと投稿をしていただき、ありがとうございました。
タイムリーにと思っていてもなかなか実現しないのが今までです。
でも1年に1回は必ず発行していきたいので、ボランティアをしてくださる方がみえましたら、是非お知らせをお願いします。
2. 新春交流会へはたくさんのご参加をお願いします。
3. メールをされている方で、まだ会長までメールアドレスを連絡していただいていない方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。
4. 2018年にRI（私たちの世界の本部）の大会がニュージーランドで開催をされます。
それにもJRPS三重単独でツアーを作って参加する予定をしています。
日程は2月7日から11日までです。

発行人：特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室

編集：JRPS三重会報編集部 河原洋紀
〒515-0847 松阪市岩内町614
(電話・FAX) 0598-58-2664
(e-mail) hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円